

納税月報

2003.feb

2

No.662

新年特集03年、変革のとき

厳しい年こそ現実を直視することから始めよう
メディアと情報文化の未来像
経営活性化に不可欠な自分魅力高めよう

年頭所感 国税庁長官 渡辺 裕泰

●インタビュー「めざせ オンリーワン」

『新技術・新工法で必要
とされる企業をめざそう』

神島 昭男(株神島組社長)

確定申告に向けて

商法ビッグバンと会計・税務

非居住者等所得に係る
源泉所得税の取扱いについて

平成15年度与党3党税制改正大綱のあらまし

[日本が見えるキーワード]

産業再生 中小企業改革なくして日本再生はない

[Tax View]

相続税・贈与税改革の動向

[サイエンスクラブネットワークが企業を変える]

インターネット開発の黎明期

[税務ステーション2001]

複雑になった自己株式の取扱い

[経営と会計“実学”の発想教えます]

「アメーバ経営」って何なの?

[電車で読む身の回りの法律相談]

知人から儲け話をもちかけられました

[社労士・太田恵子の「社長はここが知りたい」]

「試用期間」の効力は?

[近郊散歩]

泉南・飯盛山

[テイク“IT”イージー]

初心者でもブロードバンド

[資産税相談室]

[印紙税ファイル]



新技術・新工法で 必要とされる企業を めざそう！

インタビュー

めざせ！
オンリーワン



西宮納税協会理事

株式会社神島組社長

神島昭男氏

昭和20年2月生まれ、A・B型

株式会社神島組

所在地／西宮市甲風園3-1-9

—5

事業内容／総合建設業・宅建業

資本金／2000万円

従業員数／18名

平成11年春、神島組の神島昭男社長は、18人の社員の前で突然「特許を取る」と宣言した。その後3か月間、早朝に1人で社長室にこもって研究を続けた。8月に第1号「ツレール君」を申請、8か月後に特許がおりた。現在、取得した特許は13件。32件が申請中。

昭和15年有馬郡山口村で創業以来、官公庁一本で営業してきたが先細りは確実、生き残りをかけて新技術開発を決心した。工事の工期やコストの妨げとなる岩の克服に活路を見出した。9トンまでの岩なら割らずに低コストで移動させる「ツレール君」や岩盤を下から上に無振動・無騒音で割る「芯割り君」など画期的な新工法が生まれた。

また、兵庫県内の同業13社と得意技術と特許工法を持ち寄り、技術集団を形成して受注拡大をめざしている。2002年3月には兵庫県より「ひょうご経営革新大賞」を受賞した。目標は「必要とされる企業・必要とされる社員」。

特許を取る



特許が取れた——変人?!

山下 「特許を取る」と決心されたきっかけは?

神島 ゼネコン大手デベロッパのある方から、「おたくは西宮でやってはるけども、阪神間で必要とされている会社か」と問いかけられたんです。ガーンとやられました。ものすごいショック。建設業の業界で10社、20社減ったって、別にどういふこともないんですわ。「神島さんには、おってもらわんと困る」といつてもらえる会社になると、その人に約束しました。どうしたらいいのかと考えました。うちにはできない仕事をつくること、それには特許だど……。

山下 でも、特許を取らなくて簡単じゃないですよ。技術をもっとも持たれてた?

神島 いやいや、普通の建設業。変人扱いされましたよ。3か月間会社に朝6時に来て、ズーッと考えました。打合せや普段の仕事の後回しにして……。図面

インタビュー
山下りら



フリーアナウンサー。同志社大学卒。元テレビ大阪報道記者、元NHK鳥取放送局ニュースキャスター。現在「西日本の旅」(NHK)「NNN24」(読売テレビ)などで活躍中。趣味はフィギュアスケート、温泉めぐり

を立体的にするため、紙を切つて模型をこしらえたりしました。最初の特許となった「ツレール君」は、今までは石をワイヤーロープで吊っていたが吊れない石がある。何か今までとちがう方法はないのかなというところから入っていきました。石は、上からたたくと100%の力がいり、引つ張ると5%で割れる。斜めだと10%、15%で割れる。ところが、360度・全面にグッと同じ力をかけると石は割れない、と考えました。

造ってくれ」と強引に言わないとやってくれないんですよ。友達のところまで試作品をつくってもらって、運転手2人とレッカー1連れて実験をやったんですけど、皆がこんなもんで吊られへんというんです。山下 どうでした? 神島 10トンを超える大岩に4センチくらいの穴を2つ開けるんです。そこにツレール君の棒——周りにスカート(4枚の羽根)をはかして——をスカートと入れて、上へ引き上げるとき、そのスカートがパツと開くんです。そうしたら、かしめ状態になるんです。スーツと上がりましたよ。

山下 拍手ですよね! 特許は、土木の現場で必要なものばかりですか? 神島 そうです。岩に絡むものばかり。土木関係の特許出願は一番少ないですね。今32点出願していて13の特許がおりています。

地球工学の権威である東大の大久保先生が見たいと言われ、昨年の3月4日と5日に先生方や官公庁約300人を集めて「芯割りジュニア」の現地見学会をしました。おかげで各地で

仕事をいただけるようにもなりました。兵庫県下では西宮近辺よりも川西とか高砂、西脇とあちこち行ってます。三重県のものすごい現場にも行きました。道路に亀みためにデッキカ石が落ちてきそうなんです。足場が悪い。それを少しずつ上から切つて、ツレール君で吊りだして全部取ったんです。もし人力で運ぼうとしたら、大変。すごいコストダウンになるわけです。山下 すごい。石があるところ、

神島組あり! ツレール君というネーミングがいいですね。神島 女房は会社の経理からいろいろとやっているんですが、心配していたので公開実験の現地から電話したんです。「え、ホントに?」石に穴あけて、ヒューッと吊れたんや。ほんならツレール君やね」って、その次の下から上を向いて岩を割るのは、芯を割るから芯割り君だということ……。

芯割り君はトンネルのシールド工法に匹敵できるように小さい穴をあけて、奥に入れて押していくと、だんだん面積が大きくなるでしょう。だいたい45度で割れる。下から上に向かつて割る。機械で上から叩いて割るとものすごい音が連続しますけれども、これは、無振動・無騒音といつてもいいレベルです。これが画期的で、大久保先生から上からカンカンと割るのが普通なのに、下からスツと岩が割れるというのはすごいなあ、と言っていたいただきました。

生き残りをかけて

山下 兵庫県の経営革新の賞を受賞された？

神島 2001年、朝日新聞に兵庫県が経営革新の賞を公募しますという記事が出たんです。

アカンで元々と講習会に参加し、結構時間をかけて書類を整え応募しました。中小零細で、従業員18人の会社が、先進的なことを実践していることを評価いただいたみたいで、おもしろいけど経営革新大賞をいただきました。あちこちで話題になりました。とても光栄です。

山下 兵庫県の同業13社と「新建設技術工法協会」を結成されたそうですね。それは？

神島 生き残りというとおおげさかもしれませんが、お互いの得意技術を営業戦略に生かして受注拡大を図り、技術研究もしていくというものです。但馬、播州、淡路など兵庫県全域にわたってます。ソネットとか海洋土木の森長組や寄神建設など中

堅のゼネコンが参加しています。例えば、出石町の川嶋建設は

「エルガード」という道路の拡幅工事などで切り出した土砂などが飛び散らないようにする防護柵を開発したりしています。

海の業者さん、山の業者さん、一般土木で特許をもっているうちみたいな業者がそれぞれ工夫した技術をドッキングさせて広げていけたらいいなと思って、いっぺん集まらへんかと電話したんです。

海の中の岩を割るのに大きな重たいものをゴーンと落として割ってる。21世紀に原始的なことをやっています。芯割り君とツレール君は水中でも使用できるので、そんなことから公開実験をやってみようかということ、面白そうなることに取り組み、新技術を開発できたらしいなと……。ほんとに始まったばかりなんですよ。

山下 こういう新しいことって、PRが大事なんですよ。

神島 会社の活動状況のホーム

ページを作って、CD-ROMを各府県市町村などに送りましたら、Eメールが返ってきます。

県知事さんから直接Eメールがきたこともありますし、韓国からも……。また、三重県はアポイントをとらずに営業に行っても「新しいアイデア、工法によるコストダウンの提言です」というと、「どうぞこちらへ」と、ずいぶん熱心に聞いてくれます。ただの営業なら門前払いかもしれません。新しく現実的なことなら歓迎というところかも……。徐々に役所などの意識も変わってきますね。

山下 新技術に関して、実際の利益はかなり上がってるんですか？

神島 利益はまだまだです。(笑) 特許に1億円くらいつぎ込んでますけど、将来的にうまくいくであろう、という見込みでやっています。

山下 失敗もあるんですか？

神島 ありますよ。机上論ではいけるんですが、3割くらい失

敗しています。だけど失敗を恐れず、そこから学んでいくことがやっぱりバネになるんですよ。

山下 先を見通す能力があるんですよ。

神島 いやいやそんなことないですよ。天気予知にはうるさいかも……。昔話やけど、外出から帰ってきて空を見て、電話で天気予報を聞いたんです。これはアカンと勘が働いて、すぐ現場に行って「今日は全部の機械を川の中からあげとけ」といいました。その晩、豪雨で、よその会社の機械は全部水没してしまいました。

山下 天災といえば、平成7年の阪神大震災はかなりの影響がありましたか。

神島 当社の3階建のビルも倒れて周辺も大変でしたね。業界の話でいえば、6年の12月には不景気の風が吹き荒れて、どこの会社がつぶれるやろという状態。不謹慎な話かもしれませんが、建設会社はこれで息をつこうと

してました。業界の役員をしていたので、「2年しかないんだからできる範囲でやろう。ガメツク仕事をとったらいかなよ」と私は言っておったのですが、「復旧5年、復興5年で10年は仕事がある」と皆さん思っておられた。建設機械を一杯買った会社もあった。ところが、北海道や九州、全国から業者が来て、ほんとうに2年で終わつた。機械は早くて5年で償却。償却できないで倒れてしまう会社がでてきましたね。



●次々とわいてくるアイデアを熱く語る神島社長
(写真真中は、奥様で取締役総務部長の神島充子さん)

「必要とされること」

山下 影響大ですね。ところで、もっともっと新しいことを考えているんでしょう？

神島 草刈り機を考えています。2003年の3、4月に試運転して、一般市場へ5、6月に出していいこうと思っています。高速道路を走って見ていたら、夏の草刈りはたいへんなんです。車線規制して機械で刈って、掃除機で吸い込んでしまう流れ作業ができないかと……。別の時、護岸の雑草を梯子をかけて刈っているのを見ていて、ロスがあるなど……。石も一緒に磨ければいいんじゃないかと考えました。

山下 すごいですね。基本的には、どうすれば皆が楽できるかという発想ですね。

神島 機械で刈って掃除機で吸い込んでいく。ただ刈るだけじゃなしに、美しくなって、作業に今100円かかるとして70円くらいでできないかなと

……。

山下 欲張りですね(笑)。

神島 もう一つ、長野県知事が、脱ダム宣言されていますが、コンクリートの構造物・ダムは自然を壊してしまう可能性がありま。コンクリートの固まりは50年しかもたないけれども、自然の岩は何千年、何万年もついているわけです。お金をたくさんかけて壊して50年しかもたないものに代えるというのは、納得いかへん、というのが私の持論です。

御影石ならコンクリートの20倍の強さがあるんですよ。人工的に弱くするのはおかしい。下の岩と、上に小さいコンクリートをのせて一体にしたら、コストは3割で済むんですよ。岩に直にネジをきるんです。鉄でも切れるんやったら、石もさけるだろうと……。

だいたい特許は20年しか寿命がないんですね。そこから、今は岩に関連したことやってますが、岩を卒業したら、次は何

をターゲットにしようかな、と楽しめますね。

山下 正論だと思いますし、すごく楽しそうですね。最後にもし私が御社の社員だとしたらどのようなメッセージをいただけますか。

神島 仕事というのは、頭下げてお願いしてもらいに行っても、値段競争してもいずれは破綻ですからね。皆が安心して働けるような方向を目指してやっていきます。「必要とされる企業」になろうと思ってるので、あなたたちも「必要とされる社員」になつてほしい。安心を与える代わりに、あなたに任せたら「あー、いい仕事してくれた」とお客さんも喜んでくれるようにしてください。そうしたら、また、神島さんに頼もうとリピーターになつてくれる。「18人しかいないけど、1000人の会社に匹敵する仕事をしようよ」といいたいです。

山下 少数精鋭！ がんばってください。